

〔翻 訳〕

『スペクテイター』（3）

——第16号から第25号——

門 田 俊 夫

第16号 1711年3月19日（月曜日）

【アディソン】

何が正しく、何が真実で、何が適切なのか。

ここに私の関心がある。これがすべてなのだから。（ホラティウス）¹⁾

私は三通の手紙を受け取りました。一通は現在流行しているマフ²⁾に批判的になって欲しいとの手紙であり、二通目は最近フリート街のレインボー・コーヒーハウス³⁾で見掛ける膝下で留めている銀製の靴下留めに関する手紙です。そして三通目が房飾りの付いた手袋について不満を述べた手紙です。要するに、我が寄稿者たちが辛辣に非難しないで、私の観察に委ねるような男女の装身具はめったにないということなのです。従って、私は読者の皆さんに赤いヒールの靴や頭飾りのリボン⁴⁾に関する意見を述べて本紙の品位を落とす積りはないのだとお知らせしておかなくてはなりません。私はむしろ人間の情熱の中に入り込み、外面的な衣服や振舞いに現われるこの子供じみた奢侈を生み出すこういった下劣な感情を矯正したいと考えているのです。愚かで異様な装身具それ自体には罪はないのですが、それは悪徳の印にほかなりません。心の中に宿る虚栄心を断ち切りなさい。そうすれば余分な飾りや装身具一式を自然に排除することになります。花はそれを育む根が駄目になると自然に落ちるでしょう。

それゆえ、私が述べて来ましたように、療法は衣服それ自体ではなく、見せか

1) ホラティウス『書簡詩』1.1.11.

2) 当時、男性がマフを身につけるのが流行した。

3) 同名のコーヒーハウスが少なくとも6店存在した。ここではフリート街のリントン書店近くにあったコーヒーハウスのこと。

4) 赤いヒールの靴は洒落者の間で、頭飾りのリボンは婦人の中で流行した。

けの衣服の第一の根源と発端に振り向けるべきなのです。同時に、私は私の指揮下に「小間物検察官」という名の役職を創設し、その職務遂行のために週1日を割り当てることを考えているのだと認めなくてはなりません。この種の執刀者は内科医に対する外科医の関係と同じで、私の指揮下で職務を果たすことになるでしょう。ある人は体に出来たできものや腫れ物を治す際に仕事が与えられるかも知れませんが、またある人は血を清め、体質を改善することになります。実を言いますと、男女とも、若い人たちは長い剣をさし、裾は引き摺るほど長くし、もじゃもじゃの頭飾りにし、また長髪の鬘を着け、その他いくつかの邪魔になるような衣服を身につけがちですので、彼らは装身具に圧迫感を覚えたり、華美な服装につぶされないように、終始余分なものを取り除くように心掛ける必要があります。頭髪を短く刈り込み、気分を害するようなクエーカー会員あるいは無用の長物をふんだんに身につけた伊達男を私が好んでいるかどうかは大いに疑問があります。そこで、寄稿者の方には、どうすれば若者たちが私の考えに賛同するか、また彼らがこういった微々たる検閲制度の創設が国民の利益に繋がると考えているかどうかの情報をお知らせ戴きたいものと思います。何故なら、私はこの種のことは軽率にまた助言もなく扱いたくないと考えているからなのです。

次に私がお話しておかなくてはならないもう一組の寄稿者がいます。つまり、特定の人物や家族に対する個人的な中傷や陰険な風聞を手紙に書き記すそんな人たちのことです。世間には意地の悪い人が充満していますので、正しく書くことが出来ない人たちからの諷刺文や、書き方を知らない人たちが書いた皮肉の手紙が私の元に舞い込んで来ます。特に最新の郵便では、解読不可能な手紙が多数寄せられました。そしてまた、汚名や悪口を綴った女性の手になる手紙も数多く受け取りました。走り書きの終わりのシーリア、フィリップス、パストーラといった名前を見るだけで、これは当然墮落した処女、不実な妻、あるいは好色な未亡人⁵⁾についての何らかの顛末を書き送って来たのだと判断するほどのことでした。従って、私はこういった寄稿者たちに不義と寝取られ男の記事の専門の発行人になることは、つまり、恥ずべき話を現在の胸中に深く秘められた状態から白日の下に曝け出すのは私の意図ではないのだということをお知らせしておかなくてはなりません。もし私が不道德

5) ベタートン (1635-1710) の作。『好色な未亡人、またの名を浮気妻』は1月9日、ドゥルレー・レイン劇場にて、主役オールドフィールド夫人で上演された。

な人たちを攻撃するとしたら、こういった人たちを一団として攻撃し、他の人たちから受け取る最も激しい見方を利用して、誰か特定の罪人を見せしめに懲らしめるようなことはしないでしょ。要するに、私にはドロークャンサー⁶⁾が大勢いますので、全軍を攻撃するためにはひとりの敵を大目に見るのです。そして、この反道徳的行為は個々の形ではなく、種としての形で発生するのだと考えます。一撃で首がはねられるように、ローマ全市が首ひとつであればいいのにと願ったのはカリグラ⁷⁾だったと思います。かの皇帝が残酷な気質から行ったと思われることを、私は情けの心から行います。そして、罪人の集団に向かって狙いを定めます。同時に私は、新聞の部数を増やすためには、個人的な中傷や誹謗に勝るものはないのだということ十二分に分かっています。だが、私の思索はこの必要性を感じませんので、その誘惑に曝されることはありません。

次に、私はしきりにお互いの行動に注意するよう要請している党派の寄稿者に留意しなくてはなりません。私は始終、双方の党派から、寄稿する人物の反対する党の犯す悪事に対して、私が無関心でいられるかどうか尋ねられます。二日ほど前に、私は国の分割に際しては何人も中立であることを禁止するかつてのギリシャの戒律のことで責められました。しかしながら、もし万一党の怒りを買ったら、私の新聞は全体的な効力を失うことは分かっていますので、そう取られることはすべて避けて通るように取り計らいます。とにかく、私は個人的な激怒を和らげ、国民の興奮を鎮めることが出来れば、全力を尽くしてそのことに専念するでしょう。でも、私は如何なることがあっても、信仰心を失わせ、政治を駄目にし、国家を落魄させる不和や敵意を増大させる方向に加担する積りはいささかもありません。

私が先の三度の見出しで述べたことは寄稿者の数を大いに減らすのではないかと危惧しています。それゆえ、次のことをお知らせしておきたいと思います。つまり、読者に追求することの出来ない助言を主唱したり、どのように述べたらいいかわからない意外な話を耳にしたり、私の目に届かない何か流行性の悪徳に気づいたり、あるいは公表したいと思う何か目立った美德を耳にしました場合には、つまり、何か罪のない気晴らしを与えることの出来る材料をお持ちの場合には、是非と

6) ドロークャンサーとはバッキンガム公爵(1628-87)の『リハーサル』(1671)の登場人物。

7) スエトニウス『カリグラ』30。カリグラとはローマ皇帝の渾名。残酷と浪費で恨まれ暗殺された。

もご一報下さいますようお願い致します。私がお手伝いをしまして、国民の皆様の楽しみのためにそういったお話を公表させて載きたいと思う訳です。

読者の皆さんには本紙が多くの寄稿者への回答として用意されていますことがお分かり戴けることでしょうか。ところで、特別にその中から一通だけ取り上げますことをどうかお許し戴きたいと思います。この人はあまりにも謙虚な依頼をしますので、私としましてはその依頼に応じない訳にはいかないのです。

スペクテイター新聞御中

1711年3月15日

拝啓

小生は現在、自分自身のこと以外には何も気を配ることが出来ないほど恵まれない境遇にあります。そこで、どうかあなたのもとで何かささやかな職に就かせて戴けないものかとお願ひする次第なのです。あなたは職字工や発行者にロンドンの手紙や広告を受け取るよう指示をなさっていることと、小生は観測しています。そこで、小生にはウェストミンスター市とランカスター公領⁸⁾の手紙や広告を受け取るよう任命して戴けますと非常に有り難いと思う次第なのです。小生に能力が備わっていてその仕事を十分に果たせるとはお約束出来ませんが、勤勉さと誠実さでもって資質と才能の不足分を補いたいと考えています。

敬具

チャールズ・リリー⁹⁾

-
- 8) セシルストリートからテンプルバーにおよぶ特別行政区。この地区にあるサヴォイ宮、サマセットハウス、エセックスハウスは以前ランカスター公爵の所有であった。
 - 9) リリーはストランドのボーフォートに店を構える香料商人。タトラ紙の販売もしていた。

第17号 1711年3月20日(火曜日)

【スティール】

容貌は粗野で、醜く、目立たない。(ユヴェナリス)¹⁾

私たちの容姿は私たちが作り出したものではありませんので、それが不完全で美しくない場合には、私たちにとっては如何ともし難いことなのです。それゆえ、自責の念にとらわれる必要がありませんので、そのことをきまり悪く思わないことが誠実かつ見上げた不屈の精神であると私は思います。私は刺々しい顔をした伊達男が時間の大半を鏡に向かって過ごし、醜い顔立ちに柔和さと恋い焦がれる魅力を付与しようとしているのを妨げはしないでしょう。私が考えていることは、この話題について不安な考えを抱かない限り、私たちは自分たちの顔貌と容姿に満足すべきだということなのです。如何なる場合にも、適切なことを言うのに慣れていない普通の人たちにとっては、ある人物が集まりにいきなり肩でやって来たり、大口や顔付きが歪んでいることで目立つ場合には、このことがお笑い種となるのです。こういった奇異な点を何かひとつでも備えている人にとっては、その場合には他人がそうしがちなのですが、本人自らがその奇異な点を笑える場合には幸せなのです。本人にそういった快活さが備わっていれば、最初はその人の容貌に脅える女子供も後から彼のことを大いに気に入ることでしょう。持って生まれた欠陥をからかうのは他人に潜む残忍な心ですから、本人が彼らに代わって自分のことを笑い飛ばすことが出来れば、それはとても心地よいことなのです。

マントノン夫人の最初の夫²⁾はこの種の勇者でした。彼は自らの姿形の不格好さから多くの冗談を引き出しました。その冗談を彼はアルファベットのZに似せて描写します。彼はまたそれを使って帽子を脱いだのですが、その仕掛けを読者の皆さんに示して気を紛らわせます。たまたま容貌に何か滑稽な点があり、その人がそれを威厳の現われと考える場合には、その人はからかいを振り払う優れた資質の持主であるに違いありません。従って、最善の方便は自分のことを笑い飛ばすことなのです。シェイクスピアのハル王子とフォールスタッフはその芝居に関する限り、肥満と痩せを冷やかします。フォールスタッフは、ひょうきんに「羊毛の俵」、 「ベッ

1) ユヴェナリス『諷刺』10.191.

2) ポール・スカロン(1610-60)のこと。

ド压榨機」,「肉の山」と呼ばれ、ハル王子は「栄養失調」,「妖精の皮膚」,「刀のさや」,「弓の箱」,「細身の剣」と呼ばれます。³⁾ この二人の対話には何ヶ所かに容姿に関する冗談が飛び交います。この点での大きな配慮と敏感さは、自惚れの最大の弱点のひとつです。私自身に関しましては、顔の形に若干不満を持っています。私の顔は横幅に比べて縦がさほど長くないのです。このことはひとつには、私が他の人たちよりも口を開く機会が少なく、その結果、顔面の組織をそれほど延ばさないことに起因しているのかどうか、裁定を下す暇は私にはありません。原因が何であれ、顔が短いことで私はしばしばうろたえたことがあります。そこで、私は以前は前髪の部分を高くした鬘を被り、顎鬚を生やして顔の短いことを隠すのに大いに腐心しました。でも、今では、この弱さは完全に乗り越え、顔の短いことで「陽気クラブ」の会員資格が与えられるなら、もっと短くても満足することが出来るでしょう。「陽気クラブ」については、次の手紙が明らかにしてくれます。この手紙はオックスフォードから届いたものです。この手紙にはクラブに当然な陽気で上機嫌な気分がふんだんに盛り込まれています。そのまま一言半句違えずに書き留めます。

拝啓

先般の思索におけますクラブの実例大いに楽しみました。そこで貴方には今後ともお続け戴きたいのですが、貴方がグランドカイロに向かう、あるいは帰途に、幸運にもアフリカ大陸の森林地帯に足を向けていない限り、おそらくは貴方が旅行中に見掛けたことのないそんなクラブについて、失礼をも顧みませず手短にお伝えしたいものと思います。貴方が何もおっしゃらずに当地を離れて随分しまして、この大学に次のような週刊の社交クラブが誕生しました。「馱洒落クラブ」,「機知クラブ」,そして「美形クラブ」などなどがそうです。そして笑劇のようですが、仮装して世の中に出て来たような陽気な人たちが、ここ数年前から共に集い「醜悪クラブ」というクラブを結成しています。このクラブは会長1名と12名の会友で構成されています。これはセント・ジョンの学生たちが世間の人たちに信じてもらいたいとの希望から、自分たちで独立の社交界を創設したのですが、特殊な団体で、入会希望者が「醜悪法」という名称で箇条書きにされているクラブの規則を守りさえ

3) 『ヘンリー四世』第1部2幕4場。ベタートンの『サー・ジョン・フォールスタッフのユーモアとヘンリー四世』が1710年12月2日、ドゥルーリー・レイン劇場で上演された。

すれば、英国のどの学校からも自由に出選されます。その規則を一、二お伝えしましょう。

第1条 容貌に目立つ奇異な点ないし面相に奇妙な特色のない人は何人も、その入会は認められない。これに関しては当面は会長と幹事がそれを決定することができ、会長がキャスティングボートを握る。

第2条 審査にあたっては、当会発起人の親族として申し出る紳士の凸背あるいはたとえ如何なる種類のものであっても、姿形の歪みには特に考慮すること。

第3条 鼻が長さにしろ幅にしろ、著しくいびつな場合には、選出される正当な根拠となる。最後に、ひとりの欠員に対して、複数の競争者がいる場合には、皮膚の厚い方を選ぶこと。

新入会員はすべて、最初の夜に、タラの料理とイソップ⁴⁾ 称賛のスピーチで仲間をもてなすことになります。イソップの肖像画が暖炉の上に堂々とか、かなり不釣り合いに掛けています。会員たちの構想では、資金が潤沢になればすぐに、クラブ室の備品として昔から顔の悪いことで名高い人たち、つまり、テルシーテス、ドゥンススコトゥス、スカロン、ヒューディブラス、オールダムといった老紳士たちの肖像画を買い求めることになっています。

彼らは常に女性崇拝者を広言していますので、そんな人は未だ誰ひとり現われていませんが、結婚の承認を受けようとする人たちには、自分たちは可能な限りの激励を与えると異口同音に宣言しています。

非常に熱心な擁護者である立派な会長は、この前、クラブの会員が作った2編の詩を私に見せてくれました。最初の詩はタッチウッド夫人⁵⁾に捧げられた祝賀頌で前歯を2本なくしたことを詠んでいます。次ぎの詩はアンダイロン夫人の左肩についての頌詩です。彼が言うには、ウィザード夫人は天然痘を患ってから更に一層醜くなっているとのことで、クラブでは大変な人気者になっているということです。でも、私は彼が食卓でいつも司会役を務めている老ネル・トロットのことをあれほど色々言っているのを聞いたことはありませんでした。彼は彼女のことをマザー・シプトン⁶⁾の片割れとして敬慕しかつ激賞さえしているのです。要するに、彼が言

4) イソップ (c.620-c.560 B.C.) は鼻はべちゃんこ、猫背、唇は突き出て厚ぼったく、頭は不格好に長く、身体は鉤のように曲がっており、太鼓腹でO脚だったと言われている。

5) コングリーヴ (1670-1729) の『二枚舌の男』(1693) のタッチウッド夫人を想起させる。

うには、ネルは自然の生み出した並外れた作品の一例だということなのです。他人から大変な評価を受けている顔色、姿、顔立ちに関しては、それらはすべて彼が嫌悪する外観と釣り合いに過ぎないのです。どうか次のように付け加えさせて下さい。会長は愉快で楽しい紳士であり、彼はそう呼ぶのですが、親愛なる無言劇の役者諸君を受け入れたときほど愉快になることはありません。そして、これは大半のフランス人の間では非常に好ましいことなのですが、彼は本当にしかめっ面をした人に出会うのは自分のためになるのだと広言します。そして、彼はこの件に関する誠実さの一例として、この5年間彼の観察下に入っている様々な人たちについて記録した彼の手帳の一覧を見せてくれました。彼自身のことも末頼もしく、またためになる容貌の一例としてトップとしんがりに記録されていました。

敬具

アレキサンダー・カーバンクル

オックスフォード 3月12日

第18号 1711年3月21日(水曜日)

【アディソン】

でも、今では貴族も痴れもので無分別だ。

思慮を顧みず、空虚な書割りを好む。(ホラティウス)¹⁾

本日の紙面では、後世の人たちのために、イタリアオペラとそれが徐々に我が国の舞台に浸透することになったその正確なところを伝えたいと思います。何故なら、私たちの曾孫たちがどうして自分たちの先祖が自分の国で、外国の観客のように連れ立って席を占め、理解できない言葉で行われる芝居に耳を傾けていたのか、その理由を知りたがるのは目に見えているからなのです。

『アルシーノ』²⁾ は我が国にイタリア音楽の趣きを初めて伝えてくれたオペラでした。このオペラの大成功はイタリア物の作品を作る試みをいくつか生み出しました。その試みは彼の国の些細な事に至るまで、入念に仕上げた作品よりもっと自然の理に合った見世物を提供しようとするものでした。これはもっと平凡な作品を

6) リチャード・ヘッドの『マザー・シプトンの生涯』(1684)。

1) ホラティウス『書簡詩』2.1.187-8.

2) 『キプロスの女王アルシーノ』のイギリスでの初演は1705年1月16日。主役はトフツ夫人。ドゥルリー・レイン劇場。

扱っていたロンドンのへぼ詩人やフィドル奏者たちを動揺させたのです。そこで、「分別のあることにはすべて曲をつけることが出来る」という原則を定め、その原則は今日まで受け入れられているのです。

この原則が受け入れられるとすぐに、イタリアオペラの翻訳に取り掛かりました。非凡な感覚を傷つける危険性はさほどありませんでしたので、我が国の作家たちはしばしば、翻訳している一節の意味とは完全に無関係な自国の言葉を作りました。彼らの主要な関心は両者が同一の曲に合うように、英語の詩句の数をイタリアのそれに合致させることでした。そこで『カミーラ』³⁾の有名な歌である〈残忍な女。そう、私はあなたのいわんとすることは分かっています〉は怒った愛人の憤りを表出しているのですが、〈脆いものです。愛人の望みは……〉という英語の哀歌に翻訳されたのです。そして、我が国の最も洗練された人たちが、本来は激情と憤りの気分に満ちた調べに対して、落ち込み物悲しそうにしている姿を見るのはとても気持のよいことでした。また、意味が上手く翻訳される場合には、言葉の必要な置換によって一方の言語の句から他方の言語の句が導き出されるのですが、一方の言語ではごく自然であった音楽が他方の言語ではとても馬鹿げたものになるということが頻繁に生じました。逐語訳すると、「そして私の怒りを哀れみに転じた」というイタリアの詩が、韻の関係から「そして哀れみに私の怒りは変わった」という英語に翻訳されたことがあるのを私は思い出します。

このことによってイタリア語では「哀れみ」に付けられていた柔らかな調べは英語では「怒り」という言葉に降りかかったのです。つまり、原作では怒りに向けられている怒りの音楽が翻訳では哀れみを表出することになった訳です。同様に、曲調で最も繊細な調べが文中で最も意味のない言葉に振り向けられるといったことが始終発生しました。私は「そして (And)」という単語が全般にわたって付きまわっているのに気づきました。また、私は、調子の美しい数多くの「その (The)」という単語を楽しみました。そして、「そのとき (Then)」、「というのは (For)」、「～から (From)」という単語に授けられている最も美しい長所、震動、間仕切りから、英語の小辞の普及に至るまで、色々なことを耳にしました。

私たちが洗練さに向かう次の段階は、イタリア人の役者を我が国のオペラにデビュー

3) 『アイネーイス』をもとに作られたオペラ。アントニオ・マリア・ボノンチーニの代表作。1696年ナポリで上演された。イギリスでは1709年から1709年の間に64回上演された。当時イギリスで最も成功したイタリア・オペラ。

させたことです。彼らは自分たちの台詞は彼らの国の言葉で歌い、同時に我が国の役者たちは我が国の言葉で演じました。芝居の中の王様や主人公は概してイタリア語を喋り、家来たちは英語で応えるのでした。恋人は自分の理解出来ない言葉で歓心を引き、お姫様の心を射止めました。話をするものたちの間に、このように通訳を置かずに対話させるのは、とても厄介なことだと思ったことでしょう。でも、我が国の舞台の状況はほぼ3年間こういった有り様でした。

結局、観客たちはオペラの半分しか理解出来ないことがいやになりました。そこで、思考の疲れを払拭するために、今ではオペラ全編を未知の言葉で上演するように注文を出しています。私たちはもはや我が国の舞台の言葉は理解出来ません。私はイタリア人の役者たちが激しく喋っているのを見たとき、彼らが私たちの悪口を言っているのか、彼らだけの間で私たちのことを罵倒しているのか、しばしば懸念するほどでした。だが、私たちは彼らに全幅の信頼を寄せていますので、私たちの面前でも陰でやるのと同じように出来るのですが、彼らが私たちの面前で私たちの不利になるようなことは言わないで欲しいものと思います。話変わって、私は2、3百年後に執筆する賢明な先祖の趣向を知らない史家がごく自然に次のような意見を述べるだろうと考えざるを得ません。つまり、「18世紀初頭にはイギリスではイタリア語にとっても通じていたので、オペラは公共の舞台ではすべて原語で上演された」と。

一見して馬鹿げたことと分かるものを真剣に論破する必要はないと思われます。この奇怪なことの馬鹿馬鹿しさを悟るには大した分別を必要としません。だが、このことを更に驚くべきものするのは、烏合の衆の審美眼ではなく、最も洗練された人たちの分別なのです。

かりにイギリス人よりイタリア人の方が音楽に対する才能が優れているとしても、イギリス人には他にはるかに高度な事柄に対する才能があり、人々にもっと気高い娯楽を提供することが可能です。『パイドラーとヒポリュトス』⁴⁾を書くことが出来る作家がいたときには、人々が愚かにもその見事な悲劇に目もくれないほどイタリアオペラを好むことが出来たと思うでしょうか。音楽は確かに実に心地よい娯楽です。しかし、それが私たちの耳を完全に占有してしまい、人間性の洗練にとって実に大きくまた特異な技量を備えている芸術を排除するとしたら、正直言って私は

4) アディソンの友人エドモンド・スミスの作。1704年4月21日ヘイマーケット劇場で上演された。1707年6月19日にアディソンが序文を書いて出版された。

音楽を国から追放したプラトンと同様に、そのことには容赦しないでしょう。

現在、音楽に対する私たちの考えは非常に曖昧ですので、私たちの好む音楽がどのようなものであるか明確にはなっていません。ただ、一般的に言って、私たちはイギリス的でないものに夢中になっているのです。つまり、外国で生まれたものであれば、それがイタリアであれ、フランスであれ、また高地ドイツであれ、同じことなのです。要するに、我が国の音楽はすっかり根絶されており、まだその代わりにも何も植えられていないのです。

王宮が灰燼に帰したら、誰でも自由に新しい宮殿のプランを提出することが出来ます。そのプランは単なるいい加減なプランの寄せ集めに過ぎないかも知れませんが、優秀な建築家にとって有益ないくつかのヒントになるかも知れません。私もいづれ機会を改めて、音楽というテーマで自由に私の意見を述べたいと思います。その際には、その道の大家に考えて戴けるように、蓋然的に私の意見を主張することに致します。

第19号 1711年3月22日(木曜日)

【スティール】

有り難いことに、私の心は慎ましく出来ています。

行動はわずかで、言葉は更に少なく。(ホラティウス)¹⁾

ある人物が赤の他人を横目で見ているのを観察していると、私にはその視線は見られている紳士と同じように、心地よい対象から喚起される情動とは似ても似付かぬ情動を示しているように伺えるのですが、私は何か訳の分からないある種の悲しみを伴って、嫉妬深い人物の状態を考え始めることとなります。嫉妬心には何か魔力が備わっており、嫉妬深い人の目にはその力によって幸せな人たちの喜びを台無しにするのだと考えている人がいます。嫉妬深い目の動きがとても効果的に危害を加えるチャンスを伺っており、そのチャンスとは羨まれる人物が栄誉と成功の喜びに包まれているときなのだ、とフランシス・ベーコンは述べています。²⁾ 栄誉と成功の喜びに包まれているときに、順風に乗った人物の心がいわば独り歩きを始め、怨恨に曝されることになるのです。ところで、私はこういった抽象的な思索につい

1) ホラティウス『諷刺』1.4.17-18.

2) フランシス・ベーコン(1561-1626)『随筆』(1625)9.

て長々と論じる積りはありません。また、この浅ましい感情に関する作家の著述から拾い集めることが出来る多くの事例を繰り返す積りもありません。そうするのはなく、私は日常生活に目を向け、嫉妬深い人物について、次の3項目、つまり、苦悩、安心、そして幸せについて考察します。

嫉妬深い人は、本来喜びを与えてくれることにもことごとく苦しみを覚えてしまうのです。生活の面白味が反転させられることになります。嫉妬心を抱かない人たちにとっては無情の満足感を与えることが、この感情の支配下にある人たちにはこの上ない苦しみを与えることになるのです。同胞が宿す申し分のない点はすべて憎むべき対象となります。つまり、若さ、美、勇気、そして賢明さは嫉妬深い人たちの不満を誘発します。皆が認めるからという理由で、美点に気を悪くし、その人を憎むとは何と惨めで節操のない有り様でしょう。嫉妬深い人の状態はどう考えても非常に悲惨です。彼らは他人の長所や成功を喜ぶことが出来ないばかりではなく、他人の降服や好結果を考えて、すべての人たちが自分の心の平穏さを掻き乱す謀略を立てていると考えるそんな世界に生きている訳です。ウィル・プロスパーは無邪気な告げ口屋です。彼は嫉妬深い人たちとの会話に加わることを彼の務めとしています。彼は容姿端麗な若者を指差し、あの若者は大金持と密かに結婚しているのだと囁きます。嫉妬深い人たちが疑うと、彼はそのことを証明するために補足説明をします。そして、彼は自分の知る限りではあの若者には数千ポンド残してくれる叔父が居るのだと言って、必ずや彼らの悩みを更に一層増大させるのです。ウィルはこのような気質の人を苦しめるこの種の術にたけており、それを彼の楽しみとしています。こういった人たちが顔色を変え、弱々しく、ある情報が真実だと言っているのが分かると、彼は意地悪く彼らの知人について何か喜ばしいことを喋るのです。

嫉妬深い人たちが安心する材料は、傑出した人たちに伺える些細な汚点と欠陥なのです。誉れ高い人が何かあるまじきことをした場合には、あるいは、上手く実行された何らかの行為が、状況の大きな変化によって、その名声が独占出来ず多くの人たちに分配される場合には、それを聞き知ると彼らにとっては大きな慰めの種となります。こういったことはこのような悪意に満ちた人たちに密やかな満足感を与えるのです。かつては称賛せざるを得ない人物が、その人の長所が他人と共有せざるを得なくなると、自分たちの状況に一步近づいていると考えるからなのです。私は数年前に素晴らしい詩が匿名で公になったのを覚えています。そのような詩を書くことが出来ない小賢しい才人たちは作者と思われる人の酷評を始めました。これが上手く行かないと分かったとき、彼らは必死になって作者名を公にすまいとしま

した。これもまた失敗しましたが、次の方便はこの詩はある人の検閲を受けたもので、大半は別人の作だと言うのでした。この話題について論じている人たちの集団にいたある正直な人が「皆さん、あなた方ご自身がどなたもこの詩を書いていらっしゃらないのであれば、誰が書こうと関係がないではありませんか」と大きな声を出しました。ところで、嫉妬深い人たちにとって最もありふれた救いは、この種の匿名の人の美点の場合には、その所有者を出来れば明確にさせないでおき、その名聲が特定の人物のものにならないようにすることなのです。誰かの何らかの大きな幸せに関して、別のことでその人が不快に思っていることが触れられると、嫉妬深い人たちの表情が晴れるのが分かります。彼らはある人物がとても裕福だと聞くと顔色は青ざめますが、子沢山だと付け足すと顔色は元に戻ります。要するに、嫉妬深い人に気に入られる唯一確かな方法は、美点を受けるに値しないことなのです。

さて、嫉妬深い人たちの喜びについて考えますと、騎士物語の巨人の異形を読むようなものです。巨人の家の立派さは彼が殺害した人たちの夥しい四肢にあるのです。何らかの非凡な企てによって、成功が約束されている人がその試みに失敗したり、有益で称賛されることを目指している人が軽蔑と嘲笑を受けると、嫉妬深い人は表面的には虚栄心をひどく嫌っているといた振りをして、内心では悪意に満ちて、将来の誠実な大望に陰を落とすかも知れないそのひどい結果を笑うのです。

私はこの感情の性質を詳細に考察することによって、こういった思索から引き出される嫉妬を避けることを私の努力目標に据えました。私の見方が間違っていないとすれば、私にはそれを免れる能力が備わっているものと思います。私はコーヒーハウスで私の新聞が褒められているのを耳にして、直ちにその称賛から生じる嫉妬を懸念しました。そこで、翌日の新聞には私の顔に関する記事を掲載しました。私は機知で評判になっていますので、美を強調するのは辞めることにしました。このことが私のこの新聞記事で悩んでおられる不幸な紳士諸氏に何らかの安らぎを与えてくれますようお願いしています。彼らの立場はとても嘆かわしく、同情を受けるに値しますので、私は時折彼らへの憐憫の情が希薄になります。そこで時々、私の容姿について更に詳しく紹介しまして彼らを慰めることにします。話変わって、もし「観察者」に機知が備わっていると誰かが言いますと、彼が人前ではそれを見せないのだと分かれば、彼らは少し安心するかも知れません。もし誰かが彼の徳性を称賛すると、彼らは彼の顔が長くはないのだと考えて、自分を慰撫するかも知れません。

第20号 1711年3月23日（金曜日）

【スタイルル】

見栄は顔に出るものだ。（ホメーロス）¹⁾

私が自らに課しました厄介な仕事のうちでも、凶々しさを矯正する仕事ほど心を砕いているものは他にはありません。これはとりわけ「観察者」としての私の守備範囲なのです。何故なら、これは一般的には目で犯す罪であり、おそらくはこの無礼者は他の方法では傷つける機会はないでしょうから。次の手紙は若い婦人からの苦情です。彼女はこの種の過ちについて述べています。彼女の手紙には美と無垢に相応しい自制心が備わっているものの、そこには同時に憤りの感情が十分に伺えます。すべては目に問題があるのです。反道徳的行為は他人の目が天を見上げることさえ出来ないようにしてしまうのです。

拝啓

何らかの点で無様で模倣者ではない満足の行く男性は未だかつて存在しなかったと私は信じています。『スペクテイター』発刊以来、私は私が「ジロジロ見る人」と呼ぶことにしています男性たちに注目しています。彼らは時間、場所にはお構いなく、また、無遠慮に、無礼な眼差しで大勢の人たちに迷惑を掛けるのです。人形芝居や熊いじめの見世物小屋には見物人が集まりますが、教会では信心深い嘆願者と心を集中して耳を傾ける人が求められているのです。私はロンドンの北門近くの小じんまりとした敬虔な教会の信徒のひとりです。実はその会衆の大半は女性であり、これまで全員規則正しくかつ慎重深く振る舞って来ました。ところが、ごく最近、一方の側廊全体がこのぞっとするような「ジロジロ見る人」たちで占められ、不穏な雰囲気となっているのです。その中に誰よりも背の高い人がいます。彼は自分を人目にさらそうとしてクッションの上に立ち、信徒たち全員を見渡すのです。これは会衆の中でも最も敬虔な人たちにとって大きな迷惑となっています。そのことに対しまして、私たちは赤面、狼狽、苛立ちを覚え、お祈りも礼拝も出来ません。どうかこういった横柄な振舞いに対しまして、貴紙でもちまして非難して戴きました幸いと存じます。

1) ホメーロス『イーリアス』1.225.

敬具

S.C.

私自身こういった輩はよく目にしてきました。神聖さに守られている場所での無礼な振舞いはそれ以上ひどいことにはならないでしょう。こういった類の振舞いについて色々な感想が寄せられることと思いますが、「ジロジロ見る人」は通常ことの道理をわきまえてはいないのです。全会衆の前で厚かましい態度を取ることができ、人目に耐えられる輩は説論によって改心するほど簡単に諫められるような人物ではないのです。それゆえ、本日から1週間以内に、本紙の寄稿者から、その野卑な人物が少なくとも高いところではなく普通の場所に立っているとの知らせが入らなければ、私の友人ウィル・ブロスパーがご婦人方を守るために、その人物の向かい側のクッションの上に陣取り彼を睨み返すとお約束します。私は友人に視覚の最も確かな法則に従って、その人物が視線を投掛けるところにはどこにでも目を向けるようにとの指示をしておきました。ウィルがその人物と対峙し、ご婦人方のために彼がいるのですが、ご婦人方が擁護者に向かって優しい眼差しと上首尾の願いを掛けますと、その人物は当惑して恥辱を覚え、他人に与えてきた苦痛を少しは感じることでしょ。私はそうなることを願っています。

実際、こういった「ジロジロ見る人」という輩は昔から一般に人々の集まりに群がるものであり、しばしば嘆かわしい存在でありました。私にはこのような大きな悪徳を取り除く方法は分かりません。ただ、女性をじっと見据える場合には、友人は厚かましきという圧制を引かれている人たちに味方し、彼女たちが遭遇する如何なる場所でも「ジロジロ見る人」の目と対決することでしょう。女性がこのような無礼な仕打ちを受けているのを、私たち男性が黙認している間は、女性にはそれを防ぐ手段はなく、結局は「ジロジロ見る人」に従順な視線を投げ掛けることになるのです。そしてこの場合、羞恥心を欠いた男性は、敵対者に対して自分の命を無視する人と同様に、愛人に対して優位に立つのです。世間の大半の人たちは、規則に拘束され、礼儀正しく公正に行動します。こういったことに一切注意を払わない人は、礼儀正しい振舞いから受ける報いを失います。そして、こういった人には礼儀正しさを無視した罪しか残らないのです。

私は厚かましい人物は立派な家系に生まれる一種のならず者だと思います。そこで、その人物に関しては何を言っても許されるのです。誰でも自由に語ることが出来るのです。私はこのいわゆる無礼という広く流布している資質について考察する

のに大いに骨折って来ました。そして、無礼を駆使する人、またその家来が生まれる色々な国で色々な方法で精一杯努力するのだということに気づきました。イングランドの人の無礼は陰鬱かつ横柄であり、スコットランド人のそれは御しくなく飽くことを知りません。そして、アイルランド人のそれは馬鹿げておりかつ卑屈なものです。現在では、無礼なイングランド人は尊大な地主のように、スコットランド人は歓待されない客人のように、アイルランド人は自分が歓迎されていないことを知っているよそ者のように、振る舞います。イングランド北部ないし南部の無礼には愉快なものはありませんが、アイルランドのそれにはいつも滑稽なところがあります。正真正銘の無礼は常に、全くそのことを意識しない無知の結果なのです。現在、ロンドンでジロジロ見るのが最も成功している人たちは我が国の人たちです。彼らは普通、前出の寄稿者からの手紙に述べられています背丈という強みを備えているのです。そして、一般的には彼らは資産家の女性の目に止まります。私はそういった人物のひとりが地方から出て来て3ヶ月後にはいい雰囲気です劇場から、ある女性を誘い出したのを知っています。その時の芝居はオックスフォードで4年、テンプルで2年過ごした人なら観るのを恐れたような作品ではありましたが、私はどう説明すればいいかわかりませんが、思慮にかけた女性たちの意見では、こういった人たちは通常自分たち自身の愚かさを好んでいるのです。おそらく、イングランド人の伊達男はアイルランド人の伊達男ほど卑屈ではないでしょう。そこで、取り入ろうとする下心がはっきりしていますので、その場合の愚かさは許されるのです。

しかし、紛れもなく厚かましく、自分がそうであると顧みることなく振る舞う人たちは、ユーモアを込めて自分は厚かましいのだと広言し、世間の最も許し難いあらゆる過失を陽気な調子でもって「その件は知らなかった」と言い訳にもならない言い訳を言って取り繕おうと考えている人たちよりも寛大に扱われることとなります。いや、自分が無礼であるということが分かっていたら、その人はそうでないように処することが可能なのです。自ら恥じ入るべきなのです。何故なら、謙虚さの欠落はなにもものをもっても贖うことは出来ないからです。謙虚さがなければ、美は見苦しく、機知は嫌悪すべきものとなります。

第21号 1711年3月24日(土曜日)

【アディソン】

招かれざる客のための部屋もある。(ホラティウス)¹⁾

神学、法学、医学という三つの偉大な職業について考えるとき、私は時々非常に悩みます。三者はそれぞれ過重労働であり、お互いに苦しむ頭の良い大勢の紳士で占められています。

私たちは聖職者を将官、佐官、准大尉に分類することが出来ます。将官には主教、聖堂参事会長、大執事、佐官には神学博士、聖堂名誉参事会員、頸垂帯を着用するもの全員、そしてその他のものたちは准大尉以下に含められます。第1の階層については、我が教会憲章では競争者は数知れないのですが、聖職禄所有者が余剰にならないようになっています。精密に計算してみますと、第2の階層は近年過剰になっているのが分かります。名誉進級によって准大尉から頸垂帯保持者への転向が認められているのです。私の記憶では、ラストリンの値段が1ヤードにつき2ペンス以上騰がるほどなのです。准大尉についてはその数は数え切れません。もし、我が国の聖職者たちがいったん自由保有権を分割して平信徒の腐敗した慣習にかかわれば、彼らはイングランドの選挙の大半を制することが可能でしょう。

法の組織もやはり余剰人員で足手まといとなっています。それはウェルギリウスの軍隊のように、彼は書いているのですが、兵士が多すぎて武器を使う空間がないのです。この異常な団体は訴訟好きと穏健派に分類することが出来ます。前者には、裁判開廷期には毎朝馬車一杯になってウェストミンスター・ホールに運ばれる人たち全員が含まれます。マルティアリスのこの種の弁護士についての記述はユーモアに満ちています。彼らは「言葉と怒りを貸し出す人々」²⁾なのです。彼らは支払われる額によって激する度合いが異なり、依頼人に対して受け取る手数料に見合った怒りを見せるのです。しかしながら、私は読者の皆さんに私が訴訟好きだと考えている弁護士の3分の1以上の人たちは心の奥底で議論好きだけであって、法廷では情熱を見せることはないのだと言っておかなくてはなりません。にもかかわらず、どんな争いが怒るか分からないので、彼らは自分の出番があるときにはいつでも出

1) ホラティウス『書簡詩』1.5.28.

2) マルティアリスではなくセネカからの引用。

られるように、毎日ウェストミンスター・ホールに顔を出すのです。

穩健派の弁護士はそもそもいくつかの法学院の幹部がそれに該当します。彼らは法の高官であるように思えます。そして、彼らには弁護する人というよりむしろ支配者としての資質が賦与されています。こういった人たちは一日に一度食事をし、一年に一度ダンスをし、きちんとした団体の名誉のために住まいで穏やかに暮らします。

穩健派の弁護士でこれとは別にもうひとつの数知れない分派として、法律の勉強をするために法学院に籍を置きながら、ウェストミンスター・ホールよりも劇場に足繁く通い、始終裁判所以外のあらゆる公共の場に顔を出す愉快な人たちがいます。室内で譲渡証書などの文書作成に従事している隠れた存在の多忙を極めている大勢の人たちについては、私は言及しません。また、仕事がないことを事務所のせいだと言い繕っている数多くの人たちについてもここでは省略します。

第3に、医学の職業に目を向けてみますと、恐るべき人たちの集団に気づくことでしょう。彼らの姿はそれだけで人を真剣にさせます。というのは、国に医師が富んでいるときにはその国は人々がまばらになるという格言を当て嵌めることが出来るからです。サー・ウィリアム・テンプルは、彼はそう呼ぶのですが、北の巣箱がそのような桁外れの数を輩出しないで、以前のようにゴート族やヴェンダル族がはびこっているその訳を知って非常に当惑します。しかし、トールやウォドンの臣民の中には医学生はいないのだと、そしてまた、医学が現在は北でとても隆盛を極めていたのだと、その優れた著者が述べているとしたら、この難事に対する優れた解決策を見出したかも知れません。我が国のこういった人たちの集団は、シーザー時代の英国の軍隊のように、ある者は戦車で、またある者は徒歩で殺害すると描写されるかも知れません。もし歩兵が戦車兵より功が少ないとしたら、それは歩兵を迅速に町の隅々まで行き渡らせ、短時間で手早く片付けることが出来ないからなのです。整然としたこの一団の他に、正式には登録されず、不運にして自分たちの手に掛る人たちに果てしない禍をかけるはぐれ者がいます。

上述の人たちの他にも医学の下僕は無数にいます。彼らは患者がいなかったために、空気ポンプで猫を窒息させたり、犬を生きのまま切り裂いたり、顕微鏡観察用の針先で昆虫を突き刺したりして面白がっています。それにまた、雑草の手入れや蝶の収集に従事する人たちがいます。ザルガイの殻を扱う商人や蜘蛛取りは言うまでもありません。

私はこういった職業の人たちがそれぞれ生計を立てて行くために夥しく群がって

いる有り様、そしてまた、それぞれに職業人というより科学者と言ってよい多くの有能な人たちがいるその有り様を考えると、子弟たちを誠実な勤勉が榮えざるを得ないそんな生活様式ではなく、この上ない高潔、学識そして良識が功を奏さないかも知れないそんな持ち場につける両親の気質に首をかしげざるを得ません。地方の牧師補のうちで、通常教育に投入された金額よりも小額のお金を上手く活用してロンドンの参事会員になれる人はどの程度いるのでしょうか。才能が不足がちで理解力が遅くつましい人は、医学では駄目でも商いでは成功したかも知れません。脈を取る勇気のないそんな人に絹を買ってあげて満足する人がいるものなのです。ヴェイジリアスは気が回り、勤勉で、世話好きですが、頭は少々鈍いのです。彼には依頼人は一人もつきませんが、顧客は沢山ついたかも知れません。不幸は両親が特定の職業を気に入り、子弟をその職業に就かせようとするところに生じるのです。人生におけるとても大切な事柄においては、両親は自分たちの好みよりも子供たちの才能と気質を考慮すべきなのです。

ひとかどの財産を築く機会を与えてくれる持ち場につけない鈍くて物憂げな人はごく僅かであるというのは商業国の大きな利点です。きちんとした商業は、供給過剰の法律、医学、神学とは異なります。それどころか、商業は数の多さで榮え、その職に就こうとする人全員に仕事を与えるのです。商人の艦隊は世界のあらゆる市場に我が国の商品、製品を売り込み、北および南回帰線下で顧客を見つけ出す浮動の商店とも言うべき小艦隊を非常に沢山抱えているのです。

第22号 1711年3月26日(月曜日)

【スティール】

私の分別に反するものは何事も

見るのも嫌だし、ましてや、信じることは出来ない。(ホラティウス)¹⁾

「観察者」という言葉は、通例、劇場での公演の観客の一人と理解されていますので、私のところには芝居やオペラに関する手紙が沢山舞い込みます。しかし、実際には、芝居、オペラ双方とも非常に途方もないことが行われますので、自分の目で見ない限り、そういったことが本当に行われたとは信じられないでしょう。観客の大半が重要視する人間生活に関わること、つまり、自然の描写は極めて少ないの

1) ホラティウス『詩論』188.

です。分別は私たちの見世物からは却下されています。私たちの笑いさざめきは愚者に対する笑いであり、私たちの驚きは白痴に対する驚きなのです。そうでなければ、このような有りそうもなく、途方もない、支離滅裂な夢は最大限の軽蔑と侮蔑を伴うこともなく、ましてや、最大級の喝采と称賛をもって迎えられないことはないでしょう。ところで、我が寄稿者たちからの手紙はこのことを私の言葉よりももっと鮮やかに示してくれます。そこで、私は次の手紙はすべて役者からのものであること、そして演劇という事業はとても上手く営まれていますので、役者のなかには理性的なもの、鋭敏で生長力のあるもの、また、完全に気の抜けたものがないのも驚くに足らないのだという予備知識を与えるに留めてその手紙を読者の皆さんにお見せすることにします。

観察者殿

貴殿が他の動物の書簡を採り上げて寸評をなさることにしましてはとても控え目でいらっしゃいますので、トフツ夫人に殺される猪の役をやっています小生は、ハイダスペースではライオンの役はやっていなく活躍の場はなかったのだと勇気を持ってお伝えすることが出来ます。上記の役を満足の行くように演じた後、その高貴な動物の役を演じるのが私にとっては自然な成り行きだったのでしょうか。ライオンの役はそれまで2本足でしか舞台上に立ったことのない人にとってはあまりにも偉大な役なのです。私の取りましたささやかな抵抗につきましては、とても奇麗な手で吹き矢が私に向かって飛ばされました点を考慮しますと、それが果たされますことを希望しています。実を言いますと、私は単に残忍さの仮面を被っていたに過ぎません。カミーラの魅力は実に素晴らしいもので、彼女の硬直した様子を見ますとき、彼女の魅力的な声を耳にしますとき、そして、彼女の優美な動きに驚嘆しますとき、私は仮想の獐猛さを維持することが出来ず、人間のような死に方をしたのです。

敬具

トマス・プローン

観察者殿

優れているからというだけでは誰も出世しないという点におきまして、劇場は世の中の描写であるということがお分かり戴きたくペンを執っています。小生は長年にわたって家財道具の役をいくつか大きな称賛を浴びながら演じて来ました。小生は『月の皇帝』²⁾では室内の掛け物の一部となり、あるイギリスのオペラでは第三

の椅子の役を二度こなしました。そして、『玉の輿』³⁾ではポンプの役を稽古しました。今では小生も歳を取りました。舞台から引退するまでに何か台詞の役が戴けますよう、貴殿から強く推薦して戴けないものでしょうか。

敬具

ウィリアム・スクリーン

観察者殿

スクリーン氏が貴殿に手紙を出し、ダンマリで動きのない役から引き上げて欲しいと願っていることですので、貴殿が彼に動きと台詞を与えますならば、私も同じように引き上げて戴き、恐れ多くも名人だと思い込んでいます役、つまり、人間的で物静かな生活の描写の役に留まらせて戴きたいものと願っています。私はスクリーン氏が椅子の役をやっていますオペラで、数回にわたって実に見事な花瓶の役を演じました。そこで、彼が昇格しました場合には、どうか私には彼がやっていますミカンの木を手にした室内の掛け物の役をやらせて戴きたいものと思います。

敬具

ラルフ・シンプル

ドゥルーリー・レイン 3月24日

拝啓

今晚一階席で貴方の友人でいらっしゃるテンブル法学院の方をお見掛けしました。そして、その方が『巡礼者』⁴⁾の発狂の場面には気が晴れていないように伺えました。オペラおよび芝居に関して、ロンドンの人たちが陥っている間違った嗜好に対して、どうか私たちの願いを聞き入れて下さり、批判して戴きたいものと思います。正しく演じるためには確かにある程度の分別が求められます。しかし、私たちの境

-
- 2) ベーン夫人の作。1687年初演の笑劇。フランスものの翻案。1710年7月22日ドゥルーリー・レイン劇場で再演された。
 - 3) ジェイムズ・カーライル作の喜劇。1689年ドゥルーリー・レイン劇場で初演。1709年10月25日ヘイマーケット劇場、1711年5月15日ドゥルーリー・レイン劇場でそれぞれ上演された。
 - 4) ジョン・フレッチャー(1579-1625)の作。1700年ヴァンプルー(1664-1726)が改作。1707年4月30日ドゥルーリー・レイン劇場で復活。1710年11月10日にはヘイマーケット劇場でも上演された。

遇はそういった次第ですので、役柄をこなすためには理性を保留することになります。ご承知のように、狂気の場面に関しては、シェイクスピアにこの種の崇高な例があります。そこでは寛大で人道的な憤りがもとで気高い心が掻き乱されるのです。それはちょうど私たちが友人の死亡によって悲嘆に打ちひしがれるようなものです。それは人間性の縮小ではなく、促進なのです。そういった場合には、激情が理性に勝るのです。自らを慰めるために、私たちが考えられることというものは私たちが感じることに對しては無力なのです。この場面にとんでもない愚か者がいて、そこで表されている感覚は強い欲望だということは触れないでおきます。激情の役柄を務めることで長い間苦労してきました私自身に関しては、今夜は本能的な欲望だけを演じました。演じられた欲望は渴望ですが、これは詩人というよりはむしろ荷車引きによって書かれたものとして上演されます。私は桶を手にして登場するのです。口には1ガロンほど含んだ上、その桶にはクオート入りの容器がぶら下がっているのです。お恥ずかしいことですが、私はとても満足しました。そこで、これはひとつの狂気として紹介されました。でも、これは人間の狂気でないことは確かでした。ラバとかロバだったら、これまでの私自身のように味気ないものだったかも知れませんか。

敬具

ストランド、サヴォイ劇場にて⁵⁾

観察者殿

貴殿が涙一滴流さずにお読み戴ければと思ひましてお便りさせて戴く次第です。私は不幸なラティウム王の役をやっているもので御座います。そして、私はジョン・オヴ・ゴント以来この宮殿から出ました最初の王子なのです。高貴な人には有為転変がつきものであるのです。当分は護衛無しでは移動したことのなかった私は今では一兵卒のように急ぎ立てられ、次の順風を待って我が兄弟フランスのルイスに向かつて船出せんとしているところです。いったん喝采を受けて登場した役柄を捨て去ることはとても難しいことです。私は王冠を失って以来、このことを経験しています。その証拠に、新兵と口論するとき、私はレチタティーヴォで憤りを口にしています。

5) サマセットハウスの西にあるこの劇場はかつてのジョン・オヴ・ゴントの宮殿。

何と厚顔無恥な輩よ
汝は荒れ狂う君主の激怒に耐えられるとでも思うのか

この言葉が口から出るや否や、下士官は私を張り倒し、訳の分からないことを口にするとはお前は謀反でも起こそうというのか、と尋ねたのです。私の不幸な境遇をお察し戴けるものと思います。どうか貴殿の沈思黙考によりまして、王子（王子なら登場しましたら必ずや観る人たち皆さんを愉快的心地に致します）の補給金を調達戴ければ幸甚に存じます。

敬具

ラティウム王

広 告

国民の皆様へ

仮面舞踏会場から二軒のところに、ヴェニスのカarnivalからやって来ました治療経験豊かな卓越したイタリア人外科医が住んでいます。入院設備完備。仮装OK。

当外科医は来英以来二週間足らずにて、スカラムッチア（空威張りをする臆病者）4名、偽医師1名、トルコ人バス歌手2名、尼僧3名、そしてモリスダンサー1名を治療しました。

病に悩むもの訪ねられたし。

[注] 如何なる人物でも大いに歓迎。最長1年で治癒可能。仮面着用のまま抜歯可能。

第23号 1711年3月27日（火曜日）

【アディソン】

獰猛なヴォルスキ族は怒り狂い、見回し、致命傷を負わせた相手が
見当たらず、誰に報復してよいか分からなかった。（ウェルギリウス）¹⁾

他人の名声に密かな一撃を加えることほどさもなくば卑劣な心を示すものは他にはありません。機知と意図をもって書かれる風刺や皮肉は毒矢のようなものです。これは単に傷を負わせるだけでなく、その傷を不治のものにしてしまいます。こういった理由から、私は意地の悪い人が備えているユーモアと嘲りの才能を見ると大いに心を痛めることとなります。野蛮で非人間的な機知にとって、個々人の心に悲しみを掻き立て、その関係者に不安を煽り、その家族を嘲りの対象にし、しかもその相手の顔が分からないことほど大きな満足感はありません。もしある人物が機知に富み、意地が悪い上に不道德な人物であれば、その人は市民社会に紛れ込んで最も有害な種族の人物となります。彼の風刺は、その場合、どこから見ても風刺の対象になり得ない人たちに振り向けられることになるでしょう。美德や美点、そして称賛に値するあらゆるものが嘲りとからかいの対象にされるでしょう。秘密裏に放たれるこういった矢から生じる悪を列挙することは不可能です。こういった悪が生み出す傷は架空のものであり、被害を蒙った人物の胸中に内密の恥辱感ないし悲哀の念以外の何物をも生じさせないといったこと以外には言い逃れようがないのです。実際、風刺や皮肉には強奪や殺人は伴わないのは確かです。同時に、汚名と嘲笑の的にされるくらいなら、かなりな額のお金、いや命そのものでさえ失った方がましだと考える人がどれほどいることでしょうか。この場合、傷口の大きさはそれを与える人の立場からではなく、それを受ける人の立場に立って測られるべきなのです。

企てられるこの種の侵害に対して落ち着き払っていられる人たちは、隠れた苦悩を持った人たちです。私はしばしば如何なる批評家も考えていないような見方から、ソクラテスの死に際しての振舞いについて考えて来ました。かの秀でた人物は毒杯をおおるほんの少し前に、友人たちを前にして魂の不滅について話をしていました。²⁾そして、彼は如何に喜劇的な才能に恵まれた人でも、私がこういった時にこ

1) ウェルギリウス『アイネーイス』9.420-1.

のような話題を持ち出していることをとがめることは出来ないと思う、と語ります。このことは故意にかの聖なる哲学者の対話を笑いの対象にした喜劇を書いたアリストファネスのことをそれとなく言っているのだと、私は考えます。ソクラテスがこの種の戯言には少しも心を動かされず、また、上演を何度か見ても、何ら憤りの感情を表さなかったことは、幾多の著述家が認めているところです。だが、私がここで言っているのは、この卑しむべき扱いが、ソクラテスは賢明すぎて分からなかったのですが、彼の心を動かしたのだということなのです。

ジュリアス・シーザーはカトゥルスが自分のことを風刺したとき、彼を夕食に招き、とても寛大に礼を尽くしてもてなし、彼を終生の共にしたのです。³⁾ マザラン枢機卿も有名なラテン語の詩で彼のことを揶揄した学識あるキエに対して、シーザーと同じように接しました。枢機卿は彼を呼びにやり、彼の著作について少し話をした後で、彼を評価すると言って安心させ、いずれ聖職禄を与えるとの約束を交わして彼を去らせました。この約束は守られ、数ヶ月後に彼は聖職禄が与えられました。このことはキエにとって非常に大きな効き目となりました。キエは枢機卿を怒らせた文章を削除した第2版を彼に捧げたのです。

シクストゥス五世⁴⁾ はさほど肝要な心の持主ではありませんでした。彼は教皇になったとき、パスクワンの像は一夜にしてとても汚いシャツが着せられました。そこには洗濯女が王妃になったので、彼は無理矢理汚いシャツが着せられているのだという申し開きが添付されていました。これは教皇の妹のことを揶揄したのです。彼女は兄が昇進するまではパスクワンが示しているようなみずばらしい境遇にあったのです。この落首がローマで大きな評判になったとき、教皇はこの落首の張本人を見つけ出した者には相応の金を払うとお触れを出しました。その書き手は、教皇の寛大さとそしてまた彼から受けていた何らかの私的な提案を頼りにして、自ら名乗り出ました。それに対して、教皇は約束の報酬を渡しましたが、同時に、これから先この風刺家を無力にするために舌を抜き両手を切り落とすように命じたのです。アレティーノはあまりもよくある例です。ヨーロッパ中の王は彼の配下にあったことを知らない人は誰ひとりいません。それだけでなく、彼の手紙が現存します。その手紙の中で、彼はペルシャのサファヴィー王に寄付金を課していたことを自慢

2) プラトン『ファイドン』40.

3) スエトニウス『ユリウス・カエサル』73.

4) ローマ教皇シクストゥス五世。本名フェリス・ベレッティ (1520-90) 在位1585-90。

しています。

私がここで引き合いに出しました様々な例において、こういった偉人たちは自分たちの体面を傷つけたその時代の機知に対して、それぞれ異なった振舞いをしたのですが、分かり易く言って、彼らはすべて不面目に対してとても敏感だったのです。その結果、彼らは不面目をこの上ない侮辱と受け止めたのが分かります。私はどうかと言いますと、私ならこういった人目に付かない侮辱を与えることが出来ると思われる人物は信用しないでしょう。こういった人物は自分が攻撃する相手の名声を肉体的にあるいは運命の点において、確実に傷つけるだろうと思わざるを得ません。実際、平凡な風刺作家にはどこかとても残忍で非人間的な点が備わっているのです。あどけない若いご婦人は不幸な容貌を曝け出されるでしょう。一家の父は何らかの家庭内の不幸を嘲りの的にされます。妻は言葉あるいは行動が誤解されて、一生不安な人生を送ることになります。否、善人も慎みのある人も公正な人も、名誉となる筈の資質を指摘されて、面目を失わせられることになります。機知は美德と人間性が加味されないととても有害なものとなるのです。

私は実際思慮に欠けた思いやりのない文筆家のことを耳にしたことがあります。彼らは悪意からではないのですが、まるで気立てのよい人物であることが才人であることよりも誉れであるかのように、自分たちが目立ちたいという愚かな功名心から、友人や知人の名声をある種の気紛れとからかいと風刺の犠牲にします。作家にこの種のけちで性急な気性がある場合には、作家その人にその気がなくても、しばしば害をもたらすことになります。こういった理由から、私は常に、無思慮な人物は意地が悪い人物よりも有害だということを法則として主張しています。何故なら、後者は敵、つまり、害を与えたいと願う相手を攻撃するだけであり、前者は敵味方関係なく、双方を傷つけるからです。ここで私はたまたま手元に置いてあるロジャー・レストレンジ卿の寓話をひとつ是非書き写しておきたいと思います：「悪戯っ子たちの一団が池の端でカエルたちを見張っていました。そして、子供たちはカエルが首を持ち上げると石を投げつけていました。ねえ、君たち、君たちにとっては遊びかも知れないけど、私たちににとっては死んじょうことになるってことが分からないのかい、とあるカエルが言いました。」

今週私はこのように、真剣な想いに耽っていましたので、時節にまんざら不釣り合いではないと思われる思索に没頭していたことになるのでしょう。一方、落ち着いて寛大な心持ちになることが当座はとても大切なことですから、本紙では、やましさを覚える人がごくわずかであるということから、一般に聖職者たちから大目に

見られてきたこの独特の思いやりのなさについて明らかにしようとした訳なのです。

第24号 1711年3月28日(水曜日)

【スティール】

私は噂でしか知らないのですが、ある洒落者が私のところへやって来て私の手を掴み、私の名前を口にしましたのです。

「ねえ貴方、如何です」(ホラティウス)¹⁾

この町にはどう見ても素敵な会話を交わすには相応しくありませんが、にもかかわらず、自分たちのことをうとましく思っている人たちと一緒にいたいという不釣り合いな野心を抱いているしがない人たちが数限りなくいます。公園を散歩していると、かりにご婦人方と一緒に場合でも、そんな人のひとりがきつと割り込んで来ることでしょう。一杯やっていますとその場に顔を出すのです。そういった輩を一層煩わしいものにするのは、彼らが好意的に遇されている限り、不快感を示すことも機嫌とりもしないという点なのです。私が思いますに、本紙の寄稿者が私の助力でこういった輩を一掃して欲しいと考えるのは、以上の理由からなのです。以下の二通の手紙はこのような無礼な行為に悩む人たちが寄せたものです。毎晩しかじかの時間にクラレット酒を一杯きこしめすある有徳の老紳士は、大勢のこういった輩に悩まされるのです。彼らは空間と暖が保証されるので、この老紳士と一緒にいることを一種のクラブと考えている訳です。もっとも、この善良な老紳士自身はこの集まりをひどく嫌っているのですが。

拝啓

この数年間クラブ一般に対して抱いて来ました嫌悪の情とあいまって、私はこのテーマに対する貴方の考察にこの上ない関心を持ちました。これまで私は意地の悪い人からそのような無礼な輩の一味と見られ屈辱を感じているのです。小生の事情につきましては、公平に述べさせて戴きたいと存じます。そして今後は、どうか貴方の賢明なるペンの力でもちましてこのことを是正して下さることを期待致します。

実を申しますと、私は身分のある身で独身の旅行家なのです。私自身の気質を考えてみますと、私は他人を支配下にいれなくても満足するタイプなのです。部屋も

1) ホラティウス『諷刺』1.9.3-4.

ベッドもすべて私の持ち物です。その他、犬、ヴァイオリン、それに銃も持っています。私はそれで満足していますし、どんな生き物も傷つけません。私がことのほか大切にしている食事は夕食です。その夕食はいつも居酒屋でとります。時間は常に決まっており、機嫌が悪くなることもありません。そういった訳で、誰も招かないのですが、私が食事を始めるや否や、私の周りには他に行き場のない善良な人々の輪が出来ます。なるほど、各人は自分の食事代は払います。だが、この人たちは全員闖入者ですので、私が唯一の語り手であり、少なくとも最も大きな声を出す権利があるのは疑いの余地のないところであります。私はそう主張しますし、それはまた聞き手にとっては大きな利益となります。時折、私は彼らにかなり自由勝手に喋らせませす。そして時には、私の気分次第で愉快な話を差し挟み、彼らの話の流れを変えます。私はある種の不摂生が恒例となって、長年にわたって居酒屋暮らしをしているそんな連中のうちの一人です。私は酔っ払ってベッドについたことはありませんが、お酒はいつも入っています。私は非常に静かな時間を過ごします。不機嫌になりがちですが、決して腹を立てることはありません。観察者殿、もし貴方が様々な集まりに出掛けられますなら、町のどの居酒屋に出掛けましても、その主人と同じくらいにその場の支配者である誰か年配の気紛れな人物がいるのをご存知でしょう。給仕は全員、その人をおそれ敬い、常に彼と同席する客は全員、一種滑稽なまでの服従をするのです。私には分からないのですが、私自身がそういった人物であるかも知れません。しかし、それがクラブであれ何であれ、私は貴方をお願いします。何故なら、とても多くの無礼な人たちが約束もしないで私を襲うでしょうから。バーネットのクリンチ²⁾は毎晩のように夜会を開き、お金を払って来てくれる人たちにショーを見せませす。役者は彼一人なのです。どうして人々は事態を間違っているとるのでしょうか。もし彼の芸が相手にされるのであれば、どうして渡しの話が講話になってはいけないのです。ともあれ、宜しくお願い致します。

敬具

トマス・キムボウ

拝啓

この前の冬、貴方と私は人込みの中でお互いひしめき合い、ほぼ半時間というものの私たちは窮屈な姿勢で苦しみました。それ以来、顔を合わせるところではどこで

2) 当時人気のあった芸人。声帯模写を売りにした。

も、声を掛けて下さる貴方のご丁寧な立ち居振舞いに謝意を表しています。ところで、先日、公園で私が女性と散歩していましたとき、貴方は帽子をお取りになられました。彼女は貴方の態度を嫌い、私が妙な方と知り合いなのですねと言いました。彼女が私たち二人が悪意であると考えましたら、それは私の命にも関わることなのです。従いまして、今後は何卒知り合いである素振りはお見せにならないようお願い申し上げます。

敬具

こういった無礼は優秀かつ聡明なご婦人方にとってはとても煩わしいことなのです。あまりにも見劣りする人たちは、実際には訪問して会話の一助になるというよりはむしろ空席を埋めることで家具の足しになる資格があるのですが、彼らが訪問する振りをするのは大変な迷惑だと思えます。私の友人の一人は本紙に彼女の手紙を公表することで、こういった事情が是正されることを望んでいるのです。彼女は自分が免れようとしている人たちが自分からそうすると考えています。この手紙はでしゃばりで軽薄な思慮を欠いた女性を念頭において書かれているように思われます。こういった女性は単にある感じのよい上流社会の雰囲気具备了人物に気に入られていることで、自分のことを最も優れた女性と同列にあると考えているに過ぎないのです。

拝啓

世間のルールおよび作法によりますと、私はこれまで貴女と知己を得ています。すなわち、貴女と私は社会的な地位と資産は似通っていますが、どうみても相応しい話相手とは言えません。なるほど、貴女はとても奇麗でダンスも上手で人中では異彩を放っておられます。でも奥様、貴女はそれ以上なさってはなりません。もう少し遠慮なさり、また口をお慎みになられますよう心からご忠告申し上げます。貴女は言うべきことを何一つお持ちになっていらっしゃいませんので、貴女は文字通り人に会いにいらっしゃる訳です。私はどうあっても貴女とお近づきになりたくないと申しているではありません。私は最も厳格な形での行儀作法でもって、この関係を続けたいのです。行き来は致しましょう、でも、お互いに顔は会わせないでおきましょう。もし貴女が常時私と顔を会わせないほど立派な振舞いをして下さるなら、私も召使に指示をしてその恩義にお報い致します。偶然にして別の場所でお会いするような場合には、お互いに家で会っていない不運を嘆き、同じ慈善公演の

芝居のパーティーへ行き、お互い微笑み、馬車で通り過ぎるときには、メガネをはずすといいのです。このようにして、私たちはお互いの友情を上手く享有することが出来ます。何故なら、顔しか知らない人たちが居るのですから。貴女が常にそういった種類の友情を大切に下さることを私は希望します。

敬具

メアリ・テューズデイ

追伸

私の定数外の友人たちに、私が誰であるか分かるように、訪問日を署名に用います。

広 告

セント・ジェームズ・コーヒーハウスへ週一回しかお見え戴けない町のもう一隅の紳士諸兄の間で、召使の名前を間違ったり、厳密には召使自身の職分ではないことを頼んだりすることによって生じるすべての過ちを防止するために、以下のことをお知らせ致します。遠方からのお客様の掛け売り帳の記録係兼無銭飲食者監視人キドニーはその職を辞し、後任にはジョン・ソウトンが就任。ソウトンの担当であった伝言受付けおよび第一のコーヒー豆挽き係にはウィリアム・バードが昇格。同ウィリアム・バードの職であった靴磨き係としてはサミュエル・バードックが着任。

第25号 1711年3月29日(木曜日)

【アディソン】

治癒するに連れて、更に悪化する。(ウェルギリウス)¹⁾

次の手紙をお読み戴ければ一目瞭然ですので、説明は一切致しません。

拝啓

小生は一般に「虚弱者」という名で知られていますそんな病身の手合いの一員であります。元はと言えば、医学の勉強をしましたために不健全な体質とか気質になったのだと告白致します。この種の書物を読みはじめて間もなく、小生の脈が不規則であることが分かったのです。それ以来、自分で自分が悩んでいると思っている以外の病気の説明にはほとんど目を通したことがありません。シドナム博士の発熱に関する学術論文²⁾は小生を愚図つく消耗熱へと陥らせました。小生はその優れた論文を読んでいる間ずっと消耗熱に悩まされたのです。それから小生は結核症状に関する数名の著書の勉強に専念しました。それで肺病になり、その結果、ついには大変な肥満になってしまいました。ある意味において、そのことを心から恥ずかしく思いました。その後、痛みはないのですが、痛風の兆候が出ました。でも、それはある非常に聡明な著者書いた尿砂の論文を読んだお陰で治癒しました。医者がある症状を別の症状に転化させるというのはよくあることなのですが、その著者は小生に結石を与え、痛風の症状は取り除いてくれたのです。次に小生は合併症の勉強をしました。だが、偶然、サンクトリアスの書いたあの素晴らしい論文³⁾を入手して、彼の診察所見から小生が集めた「通則大系」に目を向けることにしました。医学の世界では、この紳士の発見はとてもよく知られていることです。彼は実験を上手く行うために、ある数理的な椅子を考案しました。この椅子は非常に巧みにバネの上に取り付けられているので、天秤のように如何なるものでもその重さを上手く測ることが出来るのです。この椅子によって彼は発汗によって何オンスの食物が消えるのか、どれだけの量の食物が滋養になるのか、そしてまた、排便等はどれだ

1) ウェルギリウス『アイネーイス』12.46.

2) 1694年英語に翻訳され、1705年には第4版を重ねた。

3) パデュア大学医学部教授。英語版は1676年に出版された。

けなのかを明らかにしました。

この椅子が手に入りましたので、小生はこの上で勉強、飲食、睡眠をとりました。つまり、この三年間は天秤の上で生活して来たと言えるほどなのです。どこも異常がない場合には、小生の体重はちょうど224ポンド（約101.7キロ）であり、一日絶食しますと1ポンド減り、十分に食事を摂りますとそれだけ増えるのです。そこで、小生の体質のこの不安定な体重のバランスを取るのが、継続的な目標となっています。通常の食事では224.5ポンドまでとしています。そしてかりに食事後、そこまで到達していないと分かった場合には、その分量だけビールを飲んだり、パンを食べたりします。どんなに暴飲暴食をしても0.5ポンドを限度とします。健康を考えて、毎月第一月曜日にそうしています。食後きちんと保たれているのが分かるとうすぐに、汗を5.16オンス出すまで散歩します。そして椅子に乗ってそこまで減っているのが分かる、書物を手に勉強して更に3オンス減量します。その他の部分に関しては、考慮しません。小生は時計ではなく椅子で食事をするのです。というのは、椅子が食物の量が消費されていると知らせてくれるときに、お腹が空いているのだと考え、すぐに食事にかかるのです。精進の日々には1.5ポンド減少し、厳粛な断食の日には他の日に比べて2ポンド軽くなります。

毎晩、二、三グレーン（約0.2グラム）の誤差を限度として、睡眠で4分の1ポンドの減量を見込みます。そこで、朝起きたときに、それだけ消費していないと分かる、椅子でそれだけ除きます。計算結果は常にノートに記録するのですが、前年消費し、また受け入れた量の正確な計算に基づいて、224ポンドを維持する手段を考えます。その結果、一年を通じて体重が一オンス減じるということにはなりません。だが、毎日均等に保ち、身体の適切なバランスを維持しようとする細心の注意にもかかわらず、小生は病んでやつれた状態なのです。顔色は土色でとても悪く、脈は遅く、身体は水症性になっているのです。そういう次第ですので、どうか小生を患者とお考え戴き、小生がすでに守っています以外の規則で何か取るべき確かなものが御座いましたら、ご教示戴きたいものと存じます。

敬具

この手紙を拝見しまして、私はある虚弱者の墓石に刻まれた、これは翻訳が難しいのですが、「私は健康でした。でも、もっと健康になろうとして私はここに居るのです」というイタリアの碑文を思い出しました。死の恐怖はしばしば死は免れないのだということを証明し、人々に生命を救う方向へと傾注させます。それが確実

に人々を滅ぼすのです。これは数名の歴史家たちが、死者は戦闘におけるよりも逃走における場合の方がはるかに多く出るのだということを観察して得た考えなのです。このことは身体を術で壊し、それから逃げ出そうとして、自らを死の腕の中に投げ出す夥しい数の気で病んでいる人たちにも当てはまるかも知れません。この方法は危険であるだけでなく、道理をわきまえた人間のやるべきことではありません。生命の維持を唯一の目的として顧慮すること、健康を本分とすること、養生あるいは術の方針ではない行動は一切とらないこと、これらはすべてとても卑しむべきことであり、とても浅ましくかつ恥ずべき人間の性質なので、高潔な人物ならば、そういったことに屈服するくらいならむしろ死を選ぶことでしょう。おまけに、生命に対する絶え間ない不安は、生命の持つあらゆる面白味を損なわせ、顔全体に憂鬱の影を投げ掛けます。何事につけ刻一刻失われることを恐れて楽しむことが出来なくなるのです。

以上述べましたことで、私は健康にごく自然な注意を払っている人を責めようとしているわけではありません。それどころか、精神の快活さ、仕事の能力は大いに健康な身体の結果ですので、健康な身体を培い維持しようと努めることは大切なこのなのです。しかし、常識だけでなく義務と本能によって促されるこの注意は、私たちを如何に生きるかというよりも生きることを切望しているあらゆる人にとって当然のことですが、いわれない恐怖、陰鬱な不安、そして想像上の病気に引き込むような注意であってはならないのです。要するに、生命の維持は単に二次的な関心事であり、主たる関心事は生命の方向づけであるべきなのです。もし私たちがこの考え方をすれば、そのことに気を使い過ぎなくても、生命を維持する最良の方法を講じることになるでしょう。そして、マルティアリスが死を恐れることも望むこともない幸福の極致と詠んでいる至福の域に達するでしょう。

オンス単位で健康状態を点検し、飢え、渇き、眠気あるいは運動という自然な懇請に応じないで、椅子の処方に身を処する紳士への返事として、私は短い寓話を引きます。神話学者が語るところによりますと、ユーピテルはある田舎の人の敬虔さに報いるために、その人が望むものは何でも与えると約束したそうです。すると、その人は自分の土地の天候管理をさせて欲しいと頼みました。彼は願い事がかなえられました。そこで、彼は土地が求めていると考えて、直ちに数枚の畑に、雨、雪、太陽をふりまきました。年末には通常よりも多くの収穫を期待したのですが、結果は隣近所の人たちには大きく及びませんでした。その寓話によりますと、その人はユーピテルに天候をお返し致します、さもないと私は完全に滅んでしまいますと言っ

たとのことです。